

群 教 セ	G15 - 01
	平 28.260 集
	小 - キャリア

平成 28 年度長期社会体験研修報告書

研修先：群馬ヤクルト販売株式会社

長期社会体験研修員 加藤 義信

I 研修内容

1 研修先の概要

群馬ヤクルト販売株式会社は、「一人でも多くのお客様に『健康と美』をお届けすること」を企業理念とし、「一人一人が主役」をスローガンに掲げた、今年で創業 62 周年を迎える健康快適応援企業である。ヤクルトグループは、ヤクルトブランド商品を製造するメーカーのヤクルト本社と、全国各地でヤクルトブランド商品を販売する 103 社の販売会社で構成されている。研修先は、群馬県をエリアとし、13 年以上連続で全国 1 位の販売実績を収めている会社である。事業内容としては、販売業として乳製品乳酸菌飲料、清涼飲料、健康食品、化粧品の販売、及び旅行業、保険事業である。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月～5月】（研修場所：前橋本店）

群馬ヤクルトの企業理念や使命、これから目指していく方向性や目標、会社の歴史・概要などを学んだ。ヤクルトの創始者である代田稔博士が提唱した三つの理念「予防医学」「健腸長寿」「誰もが手に入れられる価格で」についても、その考えの基礎となった部分から説明を受けた。また、商品を直接お客様にお届けする宅配サービス部、及び自動販売機や店舗にお届けする直販サービス部それぞれの業務に同行した。ヤクルトヘルスアドバイザーとして店頭立ち、お客様の健康を第一に考えた商品紹介も行った。

企業の目的は利益の追求ではなく、社会貢献であるということも学んだ。

(2) 新入社員メンター研修【6月～3月】（研修場所：前橋本店及び各サービスセンター）

新入社員との定期的、計画的なコミュニケーションを通して、業務上の悩みや様々な心配ごとの相談にのることで不安を解消し、精神的な支援を目的として、新入社員全員の相談役であるメンターとしての役割を担った。肯定的態度や課題解決への支援など、学校における教育相談や若手教員のメンターにも通じることを学んだ。

(3) 新人ヤクルトスタッフ研修【7月～3月】（研修場所：前橋本店）

毎月入社してくる新人スタッフ研修の講師を務めた。研修では、群馬ヤクルトの企業理念を念頭に、主にお客様との接し方や健康知識、商品知識についての講義を担当した。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

群馬ヤクルトで学んだことを基に、その内容を卸売業、小売業全般に広げ、キャリア教育の充実に向けた小学生向けリーフレットを作成した。「一人一人が主役になるために」をテーマとし、会社では多くの部門がそれぞれの役割を果たしながらチームとして存在していることを示した。続いて、一人一人が主役になるために小学生からできること、「自分のよさを生かしてクラスのためにがんばることは社会に出てからも大切である」といった会長のメッセージなども掲載した。

(2) 実践の概要（桐生市立境野小学校）

①授業実践

題材名 「クラスのためにがんばろう！」（学級活動）

対象 第4学年2組 28名

群馬ヤクルトでは、社員やスタッフ一人一人が、お客様のために何ができるかを自ら考え、その

役割を実践してきた結果、全国1位の販売実績を取めている。学級においても、一人一人がクラスのために自分にできることを考え、行動することができれば、児童が協力し合ってより良い学級生活づくりができると考え、本授業を実践した。本時では、自分や友だちのよさを見付け、より良い学級生活づくりのために、自分のよさを生かした役割を考えさせた。そして、自分の役割を果たす意欲付けとして、自分たちで考えたクラスのためになる役割を全員に宣言させた。

②校内研修

群馬ヤクルトは、お客様との信頼関係の構築が最も大切と考えている。学校においては、教師が保護者とのより良い信頼関係を築くことが、児童のより良い成長につながる。そこで、「保護者との信頼関係の構築」に向け、学校が組織として取り組めるよう校内研修を実践した。研修では、「保護者が求める教員の資質」を各学年で協議した後、実際に教師がその資質を身に付けるために実践すべきことを協議し、共通理解を図った。

II 研修成果

1 群馬ヤクルト内での研修について

日々研修を積んでいく中で、印象的だったことは、社員、スタッフの一人一人が主役として生き生きと自分の役割を果たしている姿であった。一人一人が主役として活躍しているからこそ、群馬ヤクルトはすばらしい結果を残せたのである。「一人一人が主役」という言葉は、学校においても通じるものであると感じる。今後、学校においても、よさを生かした役割を考えながら、児童一人一人が主役として活躍できるようにしていければ、それは結果としてより良い学級生活づくりにつながるものと考えられ、今後の学級経営への大きなヒントを得ることができた。

2 キャリア教育実践について

(1) 授業実践

本時において、全員が自他のよさを認め合い、よさを生かしたクラスのためになる役割を考えることができた。2学期末に行ったアンケートでは、全児童が自分で考えた役割をクラスのために積極的に務めたことが分かった。また、多くの児童が「みんなの頑張りによって、以前よりもクラスが良くなった」と回答した。今回の授業を通じて、児童一人一人がクラスのかげがえのない一員としての自覚と所属感を高め、より良い学級生活づくりにつながっていくと考える。

(2) 校内研修

各学年で協議した結果、必要と考える教員の資質としていくつか重複するものがあった。重複した資質を「境野小ブランド」として、今後意識化、実践化していくことを促し、さらなる保護者との信頼関係構築への提言とすることができた。

III まとめ

「ヤクルト」というと、すでに完成された企業のように感じていた。しかし、実際は日々進化を求め全社員が絶え間ない努力をしていた。会社役員の方とそのことを話した際に「進化をやめてしまったら、会社として継続していくことはできなくなる」と聞き、とても印象的であった。学校教育においても、常に教育の「不易と流行」を意識しながら、日々子どもたちのために努力していかななくてはならないと強く感じた。また、企業が大切にしていたのは、人とのつながりや信頼関係の築ける「人」であった。小学校段階で大切にしていることが、そのまま社会に出てからも必要となってくるのである。このことを十分認識し、将来を見通したキャリア教育の充実を目指していきたい。

お世話になった皆様への感謝の気持ちを込めて、この一年の研修で得た知識や経験を、今後のキャリア教育の充実と学校組織の活性化に生かしていきたい。

(担当指導主事 峯崎 正樹)